

在職 30 年を振り返って（懇談）

まえがき

今年（平成 28 年 3 月）を以て、仲地善美 当院事務部長さんが退職されることになりました。上記タイトルで、われわれ、国病久原会 OB 連絡会メンバーが仲地さんを囲んで懇談会を設けることにしました。その席で、いろいろとお話しを伺うことができましたので、現職員や OB 会員の皆様に披露したいと思います。

話し手 仲地 善美（なかし よしみ）

（長崎医療センター 事務部長）

聞き手 （国病久原会 会長 副会長 OB 連絡会のメンバー）

会長 廣田 典祥

副会長 出口 八重子

OB 連絡会メンバー

森内 昭子

浦部 豊

吉田 典子

会長（廣田典祥）

今年3月で 仲地善美 事務部長さんが定年退職され、4月からは、この国病久原会会員に加わっていただく予定です。30年に亘る在職とか。健康に恵まれ、無事に勤めを終えられる時が来たのですね。さぞかし、さまざまな思いを胸に抱いておられることと思います。

これまでの経験を通じ、いろいろお話をさせていただいて、今後のOB会の発展に繋げるような そういうヒントなり助言でもいただけたらと思います。

最初、単刀直入の質問で恐縮ですが、退職後、何処にお住まいになられますか？ 故郷の沖縄でしょうか？

仲地事務部長

私の出身は沖縄で勤務先のふりだしは沖縄病院でした。退職後の住まいはまだはっきり決まっていません。いずれ地元に戻ることになるとは思います。

副会長（出口八重子）

それ以来、何箇所を回られたのですか？

仲地事務部長

沖縄から小倉病院（現小倉医療センター）に出て以来、30年で7

箇所勤務しています。

吉田典子（OB 連絡会メンバー）

この病院がよかったところ、悪かったところを聞きたいですね。

仲地事務部長

私は国時代の長崎中央病院での勤務を経験しています。

寺本先生が院長で、ちょうど湾岸戦争があった時です。

会長

湾岸戦争★の時に寺本院長が国際貢献として真っ先に手を挙げられましたね。

★1990年8月にイラクのクエート侵攻をきっかけに、国際連合が多国籍軍の派遣を決定し、1991年1月にイラクを空襲して始まった戦争。

当時の寺本成美院長は日本医療団先遣隊のチームリーダーとして、率先して国際貢献をされた。これが認められて、後に寺本院長は国から表彰を受けられた。

仲地事務部長

だからあの時は非常に印象深かったですね、病院あげて全部署が一生懸命やっていました。事務としてもそれに水を差してはいけないという雰囲気がありました。今回2回目の勤務でしたが、それ以上に機能が強化されていました。例えばドクターヘリとか。その他

に脳死下での臓器提供も行っていますし、そういった意味では、色々なことをやっているな、という印象を強くしました。

また、これだけ建物が立派な病院というのは他にはないとも思いました。

それと大村市内の市民の方というのはこの病院に対する信頼というものが物凄く強いと思いましたね。

会長

そうですか。それは素晴らしいことだ。

仲地事務部長

病院以外の方と話す機会や、話を耳にする機会があった時に、この病院の信頼というのは強いんです。だから例えば職員一人の対応が悪ければ、悪い評判につながると思います。

副会長

確かに。

会長

わずか一人か二人の対応によって、がらりと印象が変わってしまう。

森内 昭子（OB連絡会メンバー）

国病久原会の会員の参加が中々伸びないのです。どうしたらいいだろうかというのが私たちの悩みです。事務部長さんから見て、こういうところを工夫したらいいのではないかとか、他の施設ではこういう取り組みをしているとか、気付かれたことがありましたら教えていただきたいと思っています。

仲地事務部長

例えば新採用の方や研修医の先生とかを地域の先生方に紹介するような形で、現職の方をなるべく来ていただくという様なことをすれば、開業の先生方との交流はできます。現職の方の出席を多くした方が良いのではと感じました。

副会長

ある会での現職の方の話を聞いたことがありますが、院内でも他の部署ことが殆どわからないということでした。

仲地事務部長

職員の数が1000名以上いますから無理もないとは思いますが。

会長

昔の組織と今の組織と違うんだ。

仲地事務部長

それでも、横の繋がりといえば、診療の上では、チーム医療が以前より活発になってきています。ですから、それに加わっている一部の職員は横の連携はあります。ただ全体になってくると、そうでもないところがあります。

副会長

確かにそうです。私は手術を受けましたけど、周手術期、検査入院から診断が出て、OP室が終了して病室にという、その流れはとてもいいです。本当に安心して手術も受けられてとても良かった。チームワークがとても良いと感じました。

仲地事務部長

そうだと思います。

病院全体を通したイベント的なこと、例えば「がんフォーラム」や「健康フェスタ」など、職員は結構参加していますので、そのような具合で、久原会にも参加するようになればいいんじゃないかと思います。

会長

では、だんだん大詰めにいかせてもらいますね。

事務部長さんのこれまでの長い事務職としての30年間に亘る経験を振り返ると、これから若手の事務系職員がどんどん育っていくということ。また新しい時代に向かって、事務職もいろいろ変わってくるだろうということが予測されると思います。いわば若い世代に何を期待されますか？どういうメッセージをいただけますか？

仲地事務部長

もう少し元気に仕事をしてもらいたいって気持ちはありますね。

忙しいということはあるんですが、全体的に元気がないような気がします。

それと事務職の若い者同士の結束が、それぞれが自分の好きなことをやるような世代ですから、以前に比べると希薄にはなっていると思います。

浦部 豊（OB連絡会メンバー）

事務系職員の仕事に対する熱意とか、取り組み、その辺の職場教育の問題がないですか？

仲地事務部長

昔は係長や班長が仕事の少しは余裕があって教えることもできたんですけど、今は職員の数が減ってきて余裕がないのも事実です。

会長

人数は減りましたね。確かにね。

そろそろもう長時間になりますので、あと事務部長さんの趣味、オフでの楽しみは何だろうねえってOB会の皆なで言っていました。

仲地事務部長

私は当然将来は沖縄に帰りますので、琉球芸能、音楽（三線）の方をかじろうかなと思っています。

会長

この辺でお話を締めくくろうかと思えます。

在職 30 年間ご苦労様でした。

仲地事務部長

ありがとうございます。

会長

現職の方々にも幾つかの素晴らしいメッセージを頂いたと思えます。

退職後も健康に留意され、あとの人生に幸多かれと、祈っております。

長時間、どうもありがとうございました。

.....

～会長あしがき～

時代とともに、社会も組織も変貌してゆきます。病院も例外ではありません。われわれ、OB会員にとっては、本院の様子は印象で語るしかないのですが、こうして事務部長さんのような現職の方と直に対話することによって、あらためて、医療を取り巻く環境の変化に懸命に対応してゆこうという、職場全体の雰囲気を読み取ることが出来ました。

このような対話を通じて、現職の方と、われわれOBは、長崎医療センターとの一体感を共有できるし、お互いの心の絆を保つことができます。

国病久原会は現職とOBがお互い親睦と交流を重ねる場として、一層の発展ができることを願っております